



第九号  
平成24年6月18日  
発行  
熊本市高平2-20-35  
曹洞宗 浄国寺  
編集者  
中山義昭



# 浄国寺 施餓鬼法要(檀信徒盆供養)

## のお知らせ

### 浄国寺夏季施餓鬼法要

日時 平成二十四年七月三日(火)  
午前十一時より

浄国寺檀信徒お盆先祖供養

法話 天草市本渡 延命寺住職 児玉 誠竜 師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の景書で返信下さい。

今年の梅雨は、雨が激しいようです。昨年より本堂の屋根の工事を進め、この四月より瓦の一部取替えを行い、お陰様で雨漏り等の心配はしなくて済むようになりました。今年も毎年恒例の、お盆の先祖供養を、右記の日程で厳修致します。当山では、原則として、初盆の場合のみ、自宅へ伺う

か 又は、お寺にお詣りに来て頂きますが、お盆中に全ての檀家の御宅を一軒一軒回るということは、行わないようにしています。十数年前に私が大病を患い、先代も高齢になり外回りに支障を来すようになつた事情等が重なつた為、こういう形に変えざるを得なくなりました。本来は年に一度くらいは檀家の方の自宅に伺うべき所ですが、近年急激に檀信徒の数が増え、又併設の幼稚園の仕事も重なり、個別に回るのには初盆を迎えられたお宅だけに限らせて頂くようにしました。この点を何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

送り 一昨年の案内の際にお送りした通信の中で、施

### お施餓鬼とは

餓鬼の法要の意味は、詳細に書いておりますし、昨年も書きましたが、再度簡単に記します。「誰も供養してくれない人のない御霊(餓鬼)に供養(施し)する事で、その功德を廻らしもって、自分の先祖の供養を行う」これがお施餓鬼法要の簡単な説明です。この点は、ご理解下さい。

### お盆にご先祖を思う

初盆で、伺った所では、話をさせて戴いておりますが、施餓鬼とお盆では、由来の経典が違います。又、日本でのお盆の習俗と由来になつて、「仏説盂蘭盆経」との間にも大きな隔たりがあります。習慣としてのお盆のしきたりは、日本の古くからの伝統的な考え方と日本人が農耕民族であった事と密接に関係があるようです。「お盆」という言葉は、お茶を運ぶ「お盆」とは全く関係なく「ウランバーナー」(意味は「逆さぶりの苦しみ」)という古代インド語の音訳である「盂蘭盆」という単語から来ています。その経典では、お釈迦様の弟子で神通第一とされた目蓮尊者が神通力を使って敬愛した亡き母の姿を見たところ、母親は「ウランバーナー」の苦しみを受けていた。師匠であるお釈迦様は「母親は、我が子を溺愛するあまり、他者への慈悲と感謝の心を軽んじた為、そのことで苦しみを受けている。万物万人への感謝の心を持つて供養をしなさい」と諭され、目蓮尊者は、それを実行したところ、母親は苦しみから解放されたとい

今、私たちが生きていて、存在しているのは、単なる偶然ではなく、自分の意志とは離れた所の様々な原因(縁)と縁(次の原因や条件)の果(結果)としてこの一瞬があるのです。特にご先祖様がいて、親が存在して、沢山の必然がある事ができていると



いう事実を、もう一度考えてみましょう。そして、そのことに感謝をして、今を大切に生きる事こそが、お盆の先祖供養の大切さだといふ事を思い出して下さい。今のこの世の中、生きていくこと自体苦しく辛いと感じているのは誰しも同じだと思います。更に言えば、自分の意志でこの世に生まれ、自分の希望でこの自分の身体や立場を選んで生きている人は居ないはずですが、でも、私達は今こうやって沢山の因と縁を貰ってその結果(果)として今ここにいます。その因と縁の中でも親として先祖の存在と、その努力と希望の結果として自分が生きてきているのです。毎日、眼の前の問題と対決して生きてるのが日常ですが、お盆の先祖供養の時ぐらいい、今生きていること、それを作ってくれた先祖や親へ「ありがとう」と一言つぶやいて、自分の足許(日常)を再度見直してみませんか？

**増設納骨壇完成**



以前は、当寺では昭和四十二年現在地に移転した時に作った納骨堂が一棟、坐禅堂として作り後に広間として改築した建物が一棟の配置でした。それを平成八年に二階建て一棟に併せて新築しました。その際、それまでの木製の納骨壇に加え人造大理石製の納骨壇を増設しました。木製から新しい納骨壇に移動された方も沢山いらっしゃいました。この数年納骨壇の新規加入者が増え、前年末に一杯になり中心二列(手前部分)の木製納骨壇の部分を撤去して奥と同じ規格の新しい納骨壇を七十八軒分新たに作りました(その場所に契約されていた方には無理を言って移動して貰いました)。



現在、撤去した木製納骨壇から移動をお願いした方々より、新しい納骨壇への加入を行っています。これより、木製の納骨壇で加入されていって新しい場所への移動を希望をされる方の受付を開始します。新しい納骨壇の作製には費用もかかっておりますので、移動の際は契約変更の追加加入金をお願いしたく存じます。金額は、元の契約の加入時期によって変動しますので、ご相談下さい。新しい納骨壇自体は奥に前から設置していたものと全く同じ規格です。雪洞の電球だけ「巴」に変えています。これを機会に新規の加入受付も行います。エレベータ設置、永代供養壇の完成で、納骨堂も充実してきました。これも檀信徒の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。



**谷汲観音大祭 開催**

毎年举行していますが、去る四月二十九日、午後二時より松本喜三郎墓前祭、谷汲観音像大祭を行いました。午後のシンポジウムでは、アメリカより英語教師として阿蘇の中学に着任し、そこで一大発心をして出家得度して曹洞宗の僧侶になられたフランス幸雲師(阿蘇高森含藏寺徒弟)に「出家の動機」というテーマで話をいただきました。師は、国内の修行道場で修行を積み、語学力をかわれてアラスカの布教所に七年おられました。昨今、米アップル創設者の故スティーブ・ジョブズ氏が禅に傾倒していたという話も巷間に広がっています。「青い目の禅坊主」と特異な目で見られるのは気になると言われていますが、真正面から禅の哲学を受け入れ、それを実践している師の言葉には、単に好きたりや儀式制度として受けとめて

いた。特に世襲化に慣れてしまいがちな我々僧侶には重みのある言葉で語って戴きました。尚、毎年行っている音楽会は3月15日午後三時から、奉納音楽会として、ニューヨークからジャズピアニストのタルド・ハマー氏と中川正浩(g)氏のライブを行いました。

**今、お寺にできる事**

先祖供養と死別の悲しみを共有することは、お寺の大切な役割です。同事に生きていく人間の生きる為の智慧を学ぶ場所である事も、お寺の大切な機能です。お寺の敷居を低くして、みんなと一緒に学びたいと思っています。来る十月八日(火)に私の好きな音楽と禅のコラボレーション企画で「今、ここ」に Here and Now」を計画中です。色々な視点で生きる為の仏教と禅を感じたいと思います(音楽絡みになるのは私の道楽ですが)。内容は改めて連絡します

**定例木曜坐禅会**

毎週木曜日 午後八時より

当山本堂にて

一炷(約四分)坐禅をして、道元禅師の著述に関する話(約二十分)今は「普勸坐禅儀」に費・会則一切なし、初めてのの方は「連絡下さい」